

2022年3月期 決算説明会(電話会議) Q&A サマリー

Q:国内の東北、春日井、四日市工場と海外のCKD中国工場の現在の状況

A:いずれの工場も高い稼働状況です。中国工場は上海のロックダウンによる物流面の影響を受け、足元の稼働率が4Qに比べて若干落ちていますが、少しずつ物流も動き始めているという情報が入ってきております。

Q:機器 2023年3月期業績予想の考え方

A:新型コロナウイルス感染拡大の長期化や中国ゼロコロナ対策の影響、部材の供給不足や地政学リスクなど、様々なリスクが当社の生産活動に影響を与える可能性があるかとみて、控えめに予想いたしました。

Q:機器 2023年3月期業績予想 海外主要地域別の考え方

A:期初の予想はリスクを織り込み、為替影響も控えめに置いてみております。需要環境は引き続き好調ですので、不透明感がクリアになればより良い方向にいくと期待しております。

Q:2023年3月期 設備投資計画

A:今期120億円を計画し、大きな投資は機器事業で実施予定です。自動化やクリーンルームの増設、タイの新工場への生産設備の導入、プレスリリースしましたインド工場の建設などです。

Q:機器 半導体 米国と中国への拡販について

A:米国では、新工場で5月から生産を開始し、お客様へ供給していきます。また、テクニカルセンターを通じた開発品の評価や技術的なアプローチをさらに強化してまいります。

中国では、レガシーノードを中心とした旺盛な需要に対応した供給体制を整え、受注を獲得してまいります。

Q:配当性向の引き上げなど株主還元強化の理由

A:上場企業としてあるべき姿を検討した結果、成長のための投資と株主還元のバランスを見直すこととし、今回の発表に至っております。